

口之津中学校 学校たより

心広く
心高く

八月九日

この日を長崎県の外で過ごす「無い」ことへの違和感にびっくりします。

何事もなく日常が過ぎる

登校日ではありませんし、平和を考える行事や集会もありません。原子爆弾がこの日、長崎の街の真上に落とされたのですよという説明や、被爆者、そしてその御家族の苦しみと心を寄せる学びもありません。街はいつもと同じように人や車が行き交い、子どもたちはいつもと同じように部活動や塾等に行き、大人たちはいつものように仕事をこなす。そして、その時刻、十一時二分は、誰の気にも止まらぬまま、いつの間にか過ぎていきます。

被爆県が頑張るしかない。

核兵器がもたらした惨劇を語り続けることが平和につながる。少なくとも、為政者（為政者となるかもしれない子どもたち）に使うことの非道さが伝わることを信じ、語り続けることの意義を確かめながら、今年も平和集会を開催しました。



平和への願い

終戦から七十九年、惨禍の記憶を忘れぬよう、新たな平和を希求して、平和宣言文が読み上げられました。その骨子は次のとおりです。



令和六年 長崎平和宣言（骨子）

- 被爆者（福田須磨子氏）の詩を用いた、被爆の惨状と被爆者の訴え
- 昨今の核兵器をめぐる国際情勢の中、「核兵器を使ってはならない」という人道上の規範が大きく揺らいでいることへの危機感の表明
- 核保有国と核の傘の下にいる国に対し、各国指導者の被爆地訪問を呼びかけるとともに、核兵器廃絶に向け舵を切り、外交努力により平和的な解決への道を探るよう要請
- 日本政府に対し、核兵器禁止条約への署名・批准及び憲法の平和理念の堅持の訴え、北東アジア地域の緊張緩和と軍縮に向けたリーダーシップの要請、被爆者援護の充実と被爆体験者救済の要請
- 地球市民として、様々な違いを超えてつながり合えば、思い描く未来を実現することができるとの市民社会への呼びかけ
- 原爆犠牲者への追悼と、核兵器廃絶への決意表明

「『核兵器の恐ろしさ』を忘れないで」という深い憂いと「もっと広い心で平和を創って行こう」という切なる願いを込めた宣言文だと思います。込められた心を受け止めて進みたいと思います。

《コラム 港町ブルース》

体験と実感

昔、次のような会話をしたことがあります。レモンをかじったことのない生徒に「レモン哀歌／高村光太郎」を理解させることができるだろうか。誰かのために全力を出したことのない生徒に「走れメロス／太宰治」の激しい感情を共感させることができるだろうか。

仮想現実の世界で遊び、仕事をすることが増える中、これだけ実体験を重ねておくかがますます重要になると言われています。

夏休みには実体験を

たとえば「家族のために夕食を作る」「家の窓をピカピカに磨く」というような普段やれないことをするとか「朝日を見ながらラジオ体操をする」とか「本当にレモンをかじってみる」とか。ネットやゲームをしていては感じられない「実体験」を積み重ねてほしいと思うこの頃です。



《 主な行事予定 》

《8月》

- 9日（金）県民祈りの日、平和集会（給食なし）
- 10日（土）学校閉庁日 ～15日
- 21日（水）課題実力テスト ～22日
漢字検定（給食なし）
- 23日（金）3年生授業日（給食なし）
- 26日（月）3年生授業日（給食なし）

《9月》

- 2日（月）始業式、学級役員任命式、身体測定（給食あり）
- 9日（月）駅伝試走
- 10日（火）職場体験学習～11日
- 11日（水）校外学習（3年生）
- 12日（木）育友会講演会

《心に響いた言葉》 「ふるさとを活気づけるために必要な事、それは、一人一人の意識に他ならない。挨拶もゴミ拾いも、些細な事でも思いをもって行動したい。それが私たちのふるさとの未来につながっていく。」

／社会を明るくする運動中学生弁論大会で述べた本田さんの言葉から。



シリーズ「学校教育の充実」
第一期南島原市教育振興基本計画から

第五回：教育DX

まずはもって「DX」とは何ぞや？というところですが…。



DX：デジタルトランスフォーメーション

(デジタル技術を使用した業務等の変革)

これに「教育」がはくはくするようになるか？文科省ホームページで調べると次のようになっています。

〈教育DXの柱〉

- 一、教育データの意味や定義の標準化
- 二、基盤的ツールの整備
- 三、教育データの分析・利活用の推進

これらのことを受けて、本市の教育振興基本計画には、これからの社会では「**情報活用能力**」がますます重要になることとして、次のように記されています。

これまでの教育実践やICTの活用を適切に組み合わせることで、**児童生徒の情報活用能力を最大限に引き出します。**

また、発達の段階に応じて、授業や家庭での学習用端末の活用を促進することによって、GIGAスクール構想を一層推進し、「誰もが、いつでも、誰とでも、自分らしく学べる」**学習環境の構築**を目指します。

この方針の下、タブレットPCの配備やネットワーク環境の整備が進んでいます。

〈そこで、中学校（本校）では〉

いわゆる「デジタル」の具体例としては、「**ICT機器**」と「**データ**」の二つの要素が考えられますが、「教育DX」という視点から、次のように考えています。

まず、「ICT機器」の方ですが、次の文科省の指針にあるように、健康面等に留意しながら**授業や家庭学習**などで「**積極的に使わせる**」という方針で進めています。

- ・子供の可能性を引き出し、協働的な学びを実現する。
- ・教育の質を向上させる。
- ・ICTを活用すること自体が目的化しないよう留意する。
- ・ICTが児童生徒に与える影響に留意する。(目の健康や生活リズムの乱れなど)
- ・Society5.0時代にふさわしい学校を実現させる。(文科省資料から抜粋)

一方、データの方は、生徒・教師ともに日々、様々なデータを見たり、作ったり、使ったりしているのですが、これらのデータを「保存する」だけでなく、「分析して意味を探る」、「一元化して活用しやすくする」、「蓄積して変化を見る」、「使い回して作業時間を減らす」などして**効率化**を図ったり、**価値を高めたり**することができたりと考えています。



「ひまわり」

ふるさとの文化・歴史・人物
口之津中教育の視点から

数ある花の中から、南島原市の花にひまわりを選考した理由が本市のホームページにあります。



輝く太陽に向かって**力強く伸び、あたたかな日差しを浴びて咲く黄色い「ひまわり」は、みんなに幸福と元気をもたらす花である。**
南島原市のキャッチフレーズ「南向きに生きよう！」に一番あっているため。

(本市ホームページから)

文中の言葉を借りて、望ましい「生徒の姿」を現すと次のようになります。

- ・力強く伸びる生徒
- ・みんなに幸福と元気をもたらす生徒

こんな生徒たちがいっぱいいる南島原、思い浮かべるだけでなんだか嬉しくなりました。

【「閉庁期間」のお知らせ】

八月十日(土)～十五日(木)は、学校の働き方改革の一環として「閉庁日」となり、部活動を実施しないだけでなく、**教職員も学校に出勤しません。**

御理解と御協力を

お願いします。

